

忘れてしまったら、心はつながりません。

特集

東日本大震災から2年
復興への取り組み

「NEVER FORGET 東北」
その名に込めた想い

話は少し戻りますが、東日本大震災から2週間ぐらいして、僕はあしなが育英会の方のレクチャーを受けるために神戸に行きました。同会が1999年に建てた震災遺児のための施設「神戸レインボーハウス」を訪ねた時、「柴さん、これから東北は大変ですよ。この施設は12年前にできましたが、私たちの心が完全に癒されたわけではありません。悲しみは一生続くでしょうね」とおっしゃいました。

阪神大震災の1年後、関東の人間は阪神のことをどれだけ覚えていたでしょう。忘れてしまつては、心はつながりません。養護施設を支援して35年、その経験からも支援は長く続けていくことが大切だと分かっています。福祉と同じで、始めたら続けないと意味が

Contents

特集 東日本大震災から2年 復興への取り組み

東日本大震災から2年が過ぎました。産業、雇用、教育、そして環境等の各分野において、国や地域の復興計画に基づいた取り組みが進められています。本号では特集として、復興支援プロジェクト「NEVER FORGET 東北」代表・柴 俊夫さんへのインタビュー、被災地で復興に立ち向かう現場の声、そして地球環境基金の特別助成を受けたNGO・NPOの環境保全活動を取り上げ、3年目を迎えた東北をめぐる状況をレポートします。

緊急物資の送付から絵画展へ
状況に応じた支援のカタチ

2年前の3月11日、僕は全身に針を打っていました！全体の先生は「大丈夫だ」と言いましたが、全然、大丈夫じゃないですよ（笑）。その時ふと思ったのは、こういう（身動きの取れない）状況の人はいっぱいいるんだろうなということ。僕は25歳の時、八丈島東方沖地震を現地で経験しているのですが、今回は比較的冷静でいられたのですが、ちょっとトラウマになったところもあります。例えば、スポーツクラ

Interview

始めたら、続ける。 東北を忘れないための仕組みを！

いぶし銀のバイプレーヤーとして、映画やドラマでおなじみの俳優・柴 俊夫さん。柴さんは、その芸能生活と同じぐらい長く、ボランティアやチャリティー活動に取り組んできました。東日本大震災後は、復興支援プロジェクト「NEVER FORGET 東北」を俳優仲間と立ち上げ、全国各地でチャリティーイベントを開催。被災地の人々、特に子どもたちの心を癒す拠点づくりを支援する活動を続けています。

巻頭インタビュー	2
柴 俊夫さん 俳優、「NEVER FORGET 東北」プロジェクト 代表	
オピニオン	6
復興に自然・文化・歴史という視点を 佐々木 健さん 岩手県大槌町教育委員会事務局 生涯学習課長 兼 図書館長	
活動レポート	8
東日本大震災復興活動に携わるNGO・NPO	
Partner's Talk／助成団体レポート	10
特定非営利活動法人エコ・リーグ	
NGO・NPOサポートプログラム紹介	12
開催された研修講座から	
地球環境基金のサポーター	14
地球環境基金をご支援くださった方々	



後継樹写真：(財)日本緑化センター提供

【表紙写真】
大槌町「希望の灯り」と
奇跡の一本松の後継樹
阪神大震災の犠牲者を慰霊するガス灯「1.17希望の灯り」が分灯された大槌町の「希望の灯り」。市街地とひよこりひょうたん島の実称で知られる蓬萊島を望む高台の中央公民館前に設置されています。もうひとつは、陸前高田市の名勝「高田松原」で1本だけ残った「奇跡の一本松」の穂木をアカマツ台木に割接した後継樹。ともに復興に向けての「希望」の象徴です。

プのプールで泳いでいる時に「もし地震が起きたら……」等と考えるようになりました。
田野畑村（岩手県下閉伊郡）出身の友人に電話をかけたところ、「故郷がなくなった」「寒い」と、現地の状況を教えてくれました。そこで、できることをしようと思い知り合いに声をかけ、支援物資をまとめて発送しました。現地が混乱している震災直後はターゲットを絞り、個々のニーズに合わせて支援するのが効果的だと思います。しばらくすると、被災地の様子も分

かってきたので、次は僕が代表理事を務めている「こどものための柴基金」が支援している大分の養護施設に「東北の養護施設で支援すべきところを何箇所か教えてほしい」と連絡しました。このように被災地と関わっているうちに、あしなが育英会が動き出しました。東日本大震災の遺児は2157名いると言われていますが、実態を調査し、全員に200万円ずつ寄付金を配ったのはあしなが育英会です。
この活動に、どうしたら僕たちも映画できるのかと考えていた時、チャリ

柴 俊夫さんが関わる ボランティア活動

■NEVER FORGET 東北

チャリティーイベント「俳優たち自らが撮影した絵画展」を開催し、デジタルカメラで撮影した写真を絵画調のキャンバス作品やポストカードにして寄付者に贈呈。集まったお金は、あしなが育英会によるケアハウス「東北レインボーハウス」建設に寄付。このイベントの運営にはアイリオ生命保険株式会社が協賛している。

- 札幌:2012年9月28～30日
丸井今井札幌本店 1,051,095円
- 東京:2012年10月25～28日
東武百貨店池袋店 1,260,299円
- 名古屋:2012年11月7～11日
松坂屋名古屋店 1,105,268円
- 大阪:2013年1月5～7日
阪急うめだ本店 1,871,076円
- 広島:2013年2月17～19日
福屋広島駅前店
- 福岡:2013年2月22～24日
博多阪急
- 仙台:2013年3月9～11日
藤崎一番町館

<http://www.nf-tohoku.com/>

寄付してくださった方に「あなたの優しい心が国を築きます」と話します。すると、その人は「私も一歩踏み出し、協力して良かった」と思う。枯れそうな木に水を与えるという行為が10回増えれば、その木は枯れずに済むかもしれないでしょう。

こういう考え方に対して、「柴、それは現実的じゃないだろう」「夢みたいな話」と言われることもあります。でも、僕は喜んでもらうことが嬉しいし、楽しいからやっている。ただね、時々こうも思うわけです。「神は、なぜ僕にもっとチカラをくれないのか。500億ドルの資産を持つビル・ゲイツみたいに！」ってね(笑)。



「こどものための柴基金」主催のチャリティーコンサートで田中 健さんと

生きていて良かった！ そう思えるリレーションシップを

残念ですが、東北の環境を元通りにすることは難しいでしょう。ただ「生きていて良かった！」と思えるようなリレーション(家族や友人関係、環境と社会の関係等)を、元に戻せればと思います。例えば、住まいを建てるなら、子や孫と一緒に住めるような余裕のある家にする。そのためのお金なら、出すべきでしょう。なぜなら、それはモノに対するお金じゃなくて、心に対するお金だからです。



多くの来場者を集めた阪急うめだ本店での絵画展(2013年1月)



「NEVER FORGET東北」を立ち上げた4人(柴 俊夫さん、松崎しげるさん、田中 健さん、西田敏行さん)。それぞれのポートレートをデジタル処理



絵画展の会場で、来場者にプロジェクトの趣旨や作品について説明する柴 俊夫さん

次のステップに進むには仕組みが必要です。

■こどものための柴基金

寄付金付きのオリジナル商品の販売、ならびにチャリティーでゴルフコンペやコンサート、オークション等を開催し、その収益金を寄付。主な支援先は、タイ・チェンマイのHIV母子感染児童養護施設「バーンロムサイ」、大分県別府市の児童養護施設「光の園」、日本・ベトナム脊椎外科研究会のほか、大船渡市の児童養護施設「大洋学園」、気仙沼市の児童養護施設「旭が丘学園」など。
<http://www.shiba-kodomo-kikin.com/>

柴 俊夫さんの プロフィール

1947年東京都生まれ。大学時代からモデル活動を始め、70年に「ゴールドアイ」で俳優デビュー。71年に「シルバー仮面」主演。その後も映画やドラマ、司会、旅番組等、幅広く活躍。ボランティア歴は35年と長く、「一般社団法人こどものための柴基金」をベースに、恵まれない子どもたちへのチャリティー活動を続けている。

そして大切なことは、人の存在を見捨てないこと。養護施設の子どもを見ていけば痛いほど分かることで、人間にとって自分の存在を無視されること程つらいことはありません。気にかけてくれる人がいる、それが心の拠り所になります。

これは「NEVER FORGET 東北」とは直接関係ないのですが、最初に話した田野畑村のその後。仮設住宅にお住まいの方から食器がほしいという要望があったので、僕と妻(女優・真野響子さん)らで100枚くらい送ろうということになりました。どうせなら思い出になるものをと有田焼の窯元にお願いしたところ、僕らが送ったお金で1200枚もの食器を届けてくださった。おばあちゃんたちは「これを見てみると幸せな気持ちになります」と喜んでくれました。その後、再度お



お金だけでなく、心も届ける。児童養護施設「光の園」でのクリスマス会の様子

日本中に支援のともし火を。

ないのです。被災地のことを思う。もちろん、思わないより思うほうが良いのですが、思うのなら「その思いを来年も覚えておいてね」と、僕は訴えています。それが「NEVER FORGET 東北」、絶対に忘れないで続けていこうということです。

成功を積み重ねて オールジャパンの支援体制を

東日本大震災復興支援プロジェクト「NEVER FORGET 東北」は、僕と松崎しげる、田中健、西田敏行の4名で立ち上げましたが、今では100人ぐらいの俳優や歌手、著名人、さらにはプロスポーツ選手も協力してくれるようになりました。このように支援の輪が広がったのも、続けてきたからだと思います。各地でチャリティーイベントを開催し、その都度、支援者にはこれだけ寄付が集まりましたと報告し、ホームページでも公開しています。1月5～7日には阪急うめだ本店で開催しました。阪急は最も大きなイベントスペースを無償で貸してくださり、他の百貨店も「良いことには支援しますよ」と言ってくれます。本店で成功すれば支店でもやろうということになって、日本各地にボン、ボン

と支援のともし火がとまり、それがオールジャパンとなっていきます。これがNEVER FORGETの手法です。物事を組織的に行うには、連携が大切ですね。例えば、百貨店と連携するなら、集客力を上げること。そのために僕たちも、絵画展だけでなく、ミニライブやトークショー等、新しい企画を採り入れています。

忘れない人を増やすこと それは環境も福祉も同じ

僕は俳優だけではなく、司会や旅番組等、仕事でいろいろな経験をさせてもらいました。世界61カ国に行き、自然の美しさ・残酷さ、人の優しさ・醜さを見てきました。様々な出会いが今の僕をつくってくれたのだと思います。チャリティーは、そんな人生への恩返し。マザー・テレサの言葉に「Give the world the best you've got anyway」という一節があります。自分の得た最良を与える……、お金を出さなくても、「何か協力できることがあったら」と思ってくれるだけでもいいんです。

僕らの活動は「忘れない人」をたくさんつくること。自然を守ろうという人を増やすのと、優しい心を持つ人を増やすのは同じです。僕はイベントで